

A decorative graphic consisting of two overlapping circles. The larger circle is white and is partially obscured by a smaller, light blue circle. The light blue circle is positioned to the left and slightly below the white circle, creating a lens-like effect in the center where they overlap.

第3章

将来像と基本方針

第3章 将来像と基本方針

3-1 将来像

まちづくりの基本的な方向性を踏まえ、宮の沢エリアの将来像を以下のとおり設定します。

本将来像は、宮の沢エリア全体において、「交流・にぎわいの場」「みどりや景観」「歩く楽しさ・つながり」「多様性・安心な環境」が作り育てられ、広がっていく姿を示すものです。

これらの要素を踏まえ、地域住民等と来街者の活動が無理なく共存し、居心地がよく、歩く楽しみがつかないまちの実現を目指します。

宮の沢エリアの将来像

居心地がよく、歩く楽しみがつかない宮の沢

～自然を感じながら“ふと立ち寄り”“巡り”“交流する”まち～



基本方針1の取組



基本方針2の取組



基本方針3の取組



基本方針4の取組

冬を楽しむアクティビティ、
アートづくり



歩行者天国などによる通りの活用



建物のまわりに花やみどりを配置



オープンカフェやキッチンカー
による飲食店の展開



パブリックスペースなどを活用
したチャレンジの場の創出



地域の歴史資産や大切な
資源をまもり・つなぐ



水辺に触れられ、集える親水空間づくり



ベンチやテーブルでひと息つけ
る通りづくり
にぎわいを生む店舗等の誘導

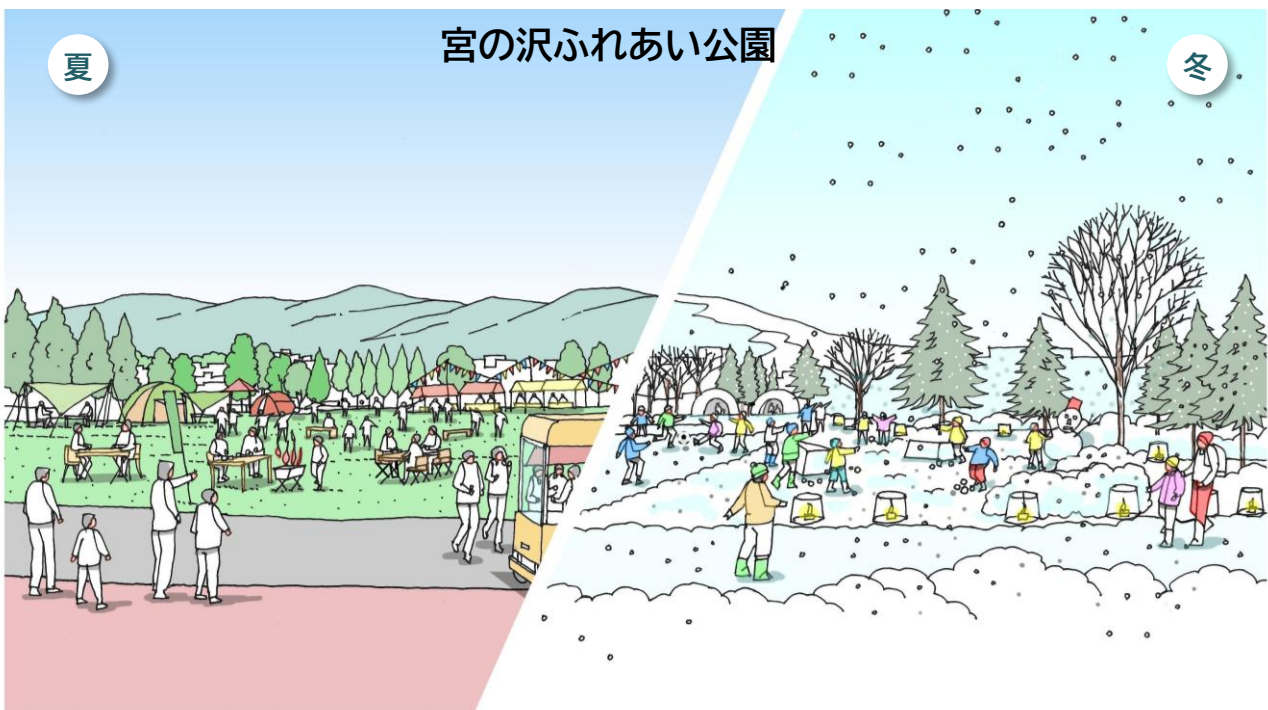


まわりの景観にあった外観・
空間デザイン

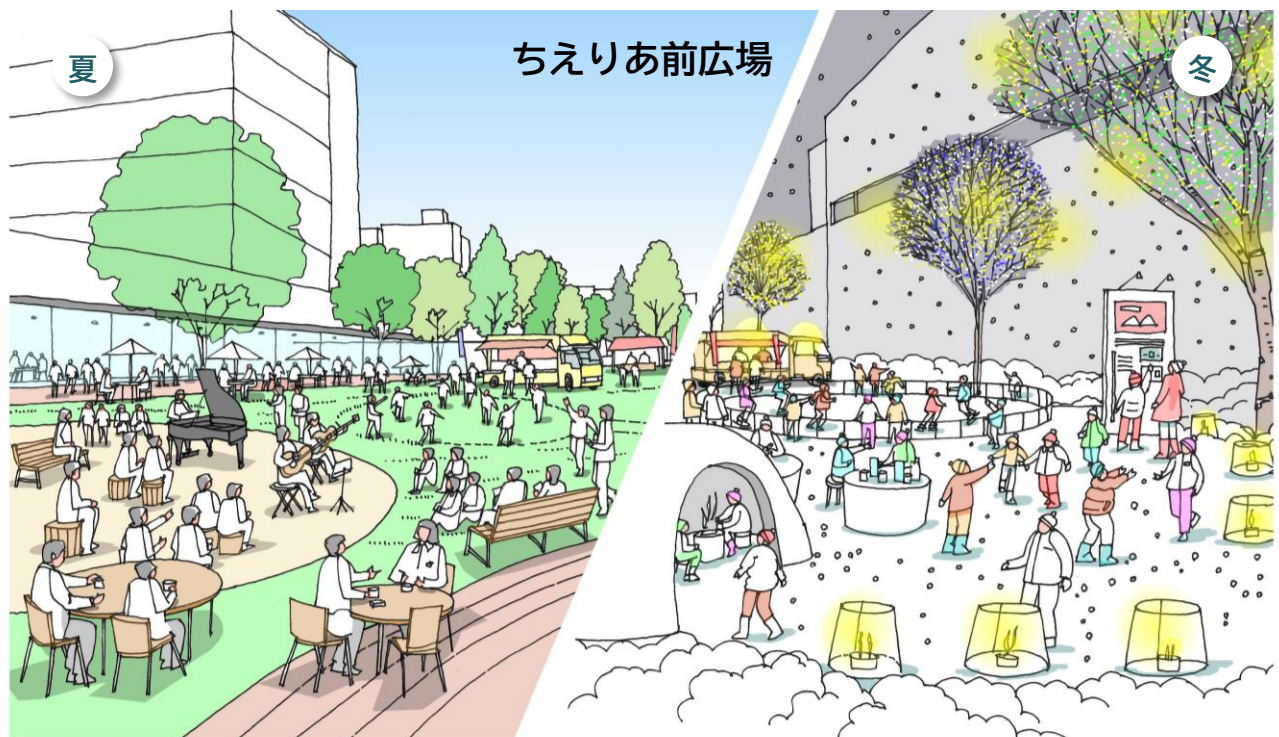
※上記に表示している取組は、次章の各基本方針から一部を抜粋して掲載（場所は、想定される場所を代表して掲載）

第3章 将来像と基本方針

居心地がよく、歩く楽しみがつかない宮の沢のイメージ



公園や広場をさらに活用し、人が集まり、交流が生まれる場が実現したイメージです。
季節に応じた使われ方により、夏も冬ものにぎわいが感じられる公園の姿を表しています。



広場を拠点に、人の流れやにぎわいが通りへと広がっています。
歩くこと自体が楽しくなる、回遊性のあるまちの一場面を描いています。

第3章 将来像と基本方針

3-2 基本方針

「居心地がよく、歩く楽しみがつかない宮の沢」という将来像を実現するため、次の4つの基本方針を設定します。

これらの基本方針は、人が集まり交流する場づくり、みどりや景観への配慮、歩く楽しさの向上、多様な人が安心して過ごせる環境づくりといった視点から、宮の沢のまちづくりの方向性を示すものです。

次ページ以降では、各基本方針の目指す姿や主な取組内容を示していきます。



基本方針1 交流・にぎわいの場

人が集まり、にぎわいや交流が生まれるまち

公園や広場などの公共的空間を活かし、だれでも立ち寄れる居場所を増やすことで、人の滞在や交流が生まれ、にぎわいあるまちをつくっていきます。



基本方針2 みどり・景観

みどりを身近に感じ、景観や住環境を大切にするまち

公園や広場、建物まわりの花やみどりを活かしながら、日常の中で自然や季節を感じられる、宮の沢らしい景観や良好な住環境をつくっていきます。



基本方針3 歩く楽しさ・つながり

つながりを感じ、安心して歩ける楽しいにぎわいのあるまち

主要な施設や資源をつなぐ動線を意識し、安全性や回遊性、沿道のにぎわいを高めることで、歩くこと自体が楽しくなるまちなみをつくっていきます。



基本方針4 多様性・安心な環境

多様な人、多世代が共存しながら楽しめるまち

地域住民や来街者、若者から高齢者など多様な人、多世代が、安心して暮らせる・安心して来街できる環境づくりなどにより、誰もが居心地のよいまちをつくっていきます。

第3章 将来像と基本方針

3-3 体系

宮の沢エリアの将来像、それを実現するための基本方針及び主な取組の体系は以下のとおりです。



コラム② 居心地がよく歩きたくなるまちづくり 「ウォーカブル」とは？

「居心地がよく、歩く楽しみがつかない宮の沢」という将来像は、札幌市が推進している「居心地がよく歩きたくなるまちづくり（＝ウォーカブル）」の考えをもとにしています。

札幌市では、歩きたくなるまちづくりの推進と実現に向けて、令和8年3月に「Well-Moving City SAPPORO 2045 ビジョン」（以下、「ビジョン」という）を策定し、都市空間の中で、心も一緒に動くまちづくりに取り組んでいます。

宮の沢は、地下鉄駅を中心に、公共施設、観光施設、商業施設、教育文化施設、公園や広場、住宅地などが徒歩圏内に集積しており、ウォーカブルなまちづくりのポテンシャルが高いことから、ビジョン検討におけるモデル地区として設定し、検討してきました。

令和5年度には「歩きたくなる宮の沢未来ビジョン」を策定し、また、令和6年度からは、ちえりあ前広場や白い恋人パーク前の道路空間を活用したイベント、スノーキャンドルなどの企画も始まりました。

このまちづくり指針の取組にも、ビジョンを実現する内容が多く含まれており、宮の沢エリアのまちづくりを推進することが、ウォーカブルなまちづくりにもつながっていくと考えています。



ビジョンで掲げる都市空間コンセプトと5つの重点方針



イメージパース（左上から時計回りに春夏秋冬）

市HP：ウォーカブルシティの推進

<https://www.city.sapporo.jp/kikaku/shomu/walkable/top.html>